

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																				
北海道ハイテクノロジー専門学校	昭和62年12月4日	塩野 寛	〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12番1号 (電話) 0123-36-8119																																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																				
学校法人滋慶学園	昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311																																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																			
医療	医療専門課程	動物科学科	—	平成17年文部科学大臣告示139号																																			
学科の目的	生物工学は地球上の生命を支え、利用する技術として有用なものである。農業・漁業等の1次産業から医薬・食品そして環境に関する研究まで、幅広いバイオ系人材の養成はこれからの社会には必要不可欠である。当学科では、食品・医薬品や遺伝子工学・先端医療など幅広い分野のバイオ系技術者の人材養成を行う。																																						
認定年月日	平成26年3月31日																																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																
4年	昼間	3585時間	1290時間	630時間	0時間	1665時間	0時間																																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																		
80	4	0	4	2	6																																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 「成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断し、GPAを用いて算出する。GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入する。」 【GPAを算出する計算式】 $GPA = \{ (\text{該当授業科目の単位数} \times \text{各授業科目で得たGP}) \text{の合計} \} \div \{ \text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計} \}$																																			
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月第4日曜日～8月第3日曜日 ■冬季:12月24日～1月第3日曜日 ■学年末:3月第2日曜日～3月31日		卒業・進級条件	選択必修科目・自由選択科目のどれかを必ず選択し、履修することが、進級・卒業要件となり、進級・卒業認定は判定会議にて学校長が行う。																																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 年度初めに個人面談実施し学習面・生活面・健康面等の不安に応じて随時面談や指導を行い、必要に応じて保護者も含めて対応		課外活動	■課外活動の種類 高校生の理科授業、地域の科学祭典、こども科学まつり等の手伝いなど ■サークル活動: 有																																			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 乳業メーカー、ゲノム編集企業、動物実験系企業 ■就職指導内容 1年次から業界研究を実施、一般教養対策、面接指導等をキャリアセンターと連携して一人ひとりに対応して実施 ■卒業生数 4 人 ■就職希望者数 3 人 ■就職者数 3 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 75 % ■その他 進学:北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科 1名 (平成30年度卒業生に関する平成31年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上級バイオ技術者認定試験</td> <td>③</td> <td>4名</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションスキルアップ検定</td> <td>③</td> <td>4名</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>MOS-PP</td> <td>③</td> <td>4名</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>実験動物管理者2級</td> <td>③</td> <td>4名</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 4年間で10～16個の資格試験を受験し平均の合格率は75%～100%程度。				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	上級バイオ技術者認定試験	③	4名	3名	コミュニケーションスキルアップ検定	③	4名	4名	MOS-PP	③	4名	4名	実験動物管理者2級	③	4名	4名												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																				
上級バイオ技術者認定試験	③	4名	3名																																				
コミュニケーションスキルアップ検定	③	4名	4名																																				
MOS-PP	③	4名	4名																																				
実験動物管理者2級	③	4名	4名																																				
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成30年4月1日時点において、在学者 8名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者 8名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生サポートアンケート、担任による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学生生活・学業・実習・適応性などをチームで対応し退学者0名を目指している		■中退率 0.0%																																				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 募集停止のため無し ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無し																																						
当該学科のホームページURL	URL: http://www.hht.ac.jp/																																						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的実施することを目的としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

食品・医薬品や遺伝子工学・先端医療や環境に関する研究まで、幅広いバイオ系業界の動物関連技術者として活躍する人材の養成を実践するためのカリキュラム編成のための委員会を組織する。教育課程編成委員会は理事会のもとに設置されており、教育課程編成委員会規定に則り適切な運営を行っている。また、学校運営においては教務組織規則において「委員会での審議を通じて示された要請、情報、意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実践するにふさわしい教育課程の編成に努める」と規定されている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西村 浩樹	株式会社ホクドー 取締役営業部長	令和元年9月1日～ 令和3年3月31日(1年6ヶ月)	③
前仲 勝実	北海道大学大学院薬学研究院 生体分子機能学研究室 教授	令和元年9月1日～ 令和3年3月31日(1年6ヶ月)	②
荒 耕児	北海道ハイテクノロジー専門学校 教務部長	令和元年9月1日～ 令和3年3月31日(1年6ヶ月)	教育課程編成 責任者
母坪 研巳	北海道ハイテクノロジー専門学校 動物科学科 学科長	令和元年9月1日～ 令和3年3月31日(1年6ヶ月)	教育課程編成 責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数:2回 開催時期:7月及び2～3月

(開催日時)

- ・平成30年 第2回 平成31年3月5日 15:00～17:00 第一校舎 113教室
- ・令和元年 第1回 令和元年8月2日 15:00～17:00 第7校舎 会議室
- ・令和元年 第2回 令和2年2月28日 15:00～17:00 第7校舎 会議室

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

バイオ業界で共通して必要なプレゼンテーション能力を向上させるために授業・実験の時間内で短いプレゼン・発表・討議の機会を設ける。その資料作りのノウハウを身につけるため、普段の実験レポートの観点を如何に読み手本位に作成するか置き、ポンチ絵や図説を多く入れる工夫を考えさせるようにする。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専門家から現場で活用されている知識や技術を学ぶことはもとより、職業人としてのルールやマナー、職業人意識などを学ぶ場とする。現場の技術や知識を教えていただきながら、命ある実験動物を使用することで責任感や向上心を持って取り組むことを学ばせる。また、知識や技術ばかりではなく、業界に身をおくその道の先輩である講師の先生との交流の中で、実験動物等に関わる仕事の面白さや苦しさなども学び、自分の将来像を描く礎とすることを目的とする

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

本校の授業で学ぶ基礎的な動物の知識や生化学の知識等をベースに、実験動物技術者として必要な専門的な知識や技術を学ぶ。内容は多様で多岐に亘るが、連続的な学習をすることができる。指導担当の先生方とは、講師会議の他、少なくとも実習の準備段階及び成績評価後に面談を行い、具体的な指導内容について意見交換を行い、その先の指導などに反映させる。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
基礎動物学実習Ⅰ	保定、飼育など実験動物技術に関する基本的知識や技術を学ぶ。	(株)ホクドー
応用動物学実習Ⅰ	実験動物技術者試験合格のための、応用知識や技術を学ぶ。	(株)ホクドー
応用動物学実習Ⅱ	マウス以外のげっ歯類の取り扱い、骨格標本の作製、下の学年に対する技術指導など。	(株)ホクドー
業界研究Ⅰ	最先端バイオテクノロジー分野における知識・実験技術、研究を遂行する姿勢を業界で活躍する研究者から学ぶ。	国立研究開発法人 産業技術総合研究所北海道センター
卒業実習Ⅲ-B	国立の研究所で最先端のテーマに沿って卒業研究を行う。	国立研究開発法人 産業技術総合研究所北海道センター
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
・令和元年2月、5月 滋慶教育科学研究所 バイオサイエンス教育部会 1名		
・令和元年7月 北海道食品産業協議会 微生物講習会 1名		
②指導力の修得・向上のための研修等		
・平成31年4月 滋慶学園北海道 JESC講師研修会 3名		
・令和元年7月 北海道私立専修学校各種学校連合会「職業実践専門課程」に係わる研修会 1名		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
・令和元年9月、12月 滋慶教育科学研究所 バイオサイエンス教育部会 2名		
・令和元年11月 北海道食品産業協議会 HACCP講習会 1名		
②指導力の修得・向上のための研修等		
・令和元年10月 滋慶教育科学研究所 マネジメント研修 1名		
・令和元年12月 滋慶教育科学研究所 2019JESC学会 1名		
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係		
(1)学校関係者評価の基本方針		
<p>日々の学校運営については学内の学校長、副校長、教務部長、部門長の会議である「運営会議(定例会毎月2回)にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行っている。また、学校関係者評価委員会で得られた外部評価における意見や提案はその内容を検討し12月には改善計画を含めた事業計画を策定している。自己点検自己評価については、年度終了後に「計画」「実践」「評価」の一連の評価を行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し自己評価点検を実施し学校関係者評価との連動により学校運営に活用している。一方教育活動については教務部長ならびに学科長で構成される学内組織である「教育改革委員会(定例会月1回開催)」にて問題の検討や計画の修正等を検討し、年2回の教育課程編成委員会への報告により毎年次年度カリキュラムへ反映し日々の授業運営の改善に取り組んでいる。</p>		

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の特色は何か ・学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針は定められているか 2-5事業計画は定められているか ・運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか ・人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか ・意思決定システムは確立されているか ・情報システム化などによる業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか ・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか ・カリキュラムは体系的に編成されているか ・学科の各科目はカリキュラムの中で適正な位置づけをされているか ・キャリア教育の視点にたったカリキュラムや教育方法などが実施されているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・教員の専門性を向上させる研修を行っているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図れているか ・資格取得率の向上が図れているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生のの社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・就職に関する体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学外実習、インターンシップ、海外研修などについて十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集において教育成果は正確に伝えられているか ・入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備は出来ているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関しその保護のための対策が取られているか ・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己点検自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価は年に1度実施している学校関係者評価委員会により各委員の意見を反映し学校運営に活かすべく方針を決定している。
業界・地域の新しい動きをリードする産官学協同教育を柱とした教育環境の提供を推し進める。

1. 早期から専門性に触れられる(アーリーエクスポージャー)カリキュラム構成にする。
2. 模擬患者演習、業界との共同研究をカリキュラムに取り入れることにより、主体的、対話的で深い学び(アクティブラーニング)を推進する。
3. 創造力を育む異分野交流学習の仕組みを創り、実行する初年度とする。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 忠寿	医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院 係長	令和元年9月1日～令和3年8月31日(2年)	卒業生代表
松本 晴美	学生の保護者	令和元年9月1日～令和3年8月31日(2年)	保護者代表
大場 真哉	帯広大谷高等学校 教諭	令和元年9月1日～令和3年8月31日(2年)	高等学校関係者
早坂 貴敏	恵庭市議会議員	令和元年9月1日～令和3年8月31日(2年)	地域関係者
足立 晋	医療法人北農会 恵み野病院 事務長	令和元年9月1日～令和3年8月31日(2年)	業界関係者
松本 耕二	株式会社 恵庭リサーチ・ビジネスパーク 代表取締役社長	令和元年9月1日～令和3年8月31日(2年)	業界関係者
真鍋 淳	医療法人社団 マナベ矯正歯科 理事長	令和元年9月1日～令和3年8月31日(2年)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 令和1年9月20日

(ホームページ)

URL: <https://www.hht.ac.jp/disclose-information.html>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対しては、業界視点を越えた教育施設としての社会活動からの評価視点を得ることが出来るため、これらを学校教育の客観的な評価、運営での業界目線、地域目線、保護者目線、卒業生目線、そして行政目線から第三者の外部評価と意見をいただく委員会として位置づけをしている。したがって、その情報提供は、学科ごとに設けた教育課程編成委員からの教育評価や産学連携、業界連携についての報告を密に行うとともに、入学式、実習報告会、懇談会、研究発表会、学園祭、卒業式等の行事にも委員の出席をいただき、学園の生の活動の理解を得る機会を持つように心がけとともに、ホームページを通じて積極的に学校情報を発信し、学校の運営状況について知っていただく機会を持つ努力と教育施設としての水準の向上に努めている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	(2)各学科等の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	(11)その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

情報提供はHPIにて公開をしている

自己点検自己評価による

<https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm20180731.pdf>

別紙様式4

<https://www.hht.ac.jp/disclose-information.html>

法人決算書及び監査報告書

https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm20180629_01.pdf

https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm20180629_02.pdf

学校関係者評価委員会報告書

<https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm2018071901.pdf>

学校関係者評価結果及び改善方策

<https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm2018022302.pdf>

授業科目等の概要

(医療専門課程動物科学科)			令和1年度												
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報科学Ⅰ	コンピュータを用いた文書処理アプリケーションの基本的な使用方法を学ぶ。 試験によって評価する。	1通	60	2		○		○			○	
○			情報科学Ⅱ	コンピュータを用いた表計算処理アプリケーションの基本的な使用方法を学ぶ。 試験によって評価する。	2通	60	2		○		○			○	
○			情報科学Ⅲ	コンピュータによるプレゼンテーションの基本的な方法を学ぶ。 試験によって評価する。	3前	30	1		○		○			○	
○			体育Ⅰ	心身の健康の維持、増進をはかり、実践を通して生涯の健康を意識する。 レポートと出席によって評価する。	1前	30	1		○		○			○	
○			体育Ⅱ	心身の健康の維持、増進をはかり、実践を通して生涯の健康を意識する。 レポートと出席によって評価する。	1後	30	1		○		○			○	
○			講読演習Ⅰ	職業人を目指すために、何が必要かを考え実践する。 レポートと出席によって評価する。	1通	60	2		○		○			○	
○			講読演習Ⅱ	職業人としてのマナーを身につけるとともに、就職に対する意識付けと就職活動の準備を行う。レポートと出席によって評価する。	2通	60	2		○		○			○	
○			講読演習Ⅲ	学生から社会人への気持ちの切り替えや、社会人としての振る舞いを身につける。レポートと出席によって評価する。	3通	60	2		○		○			○	
○			英会話	英会話を通じ、国際的コミュニケーション能力を身につける。 試験によって評価する。	1前	30	1		○		○			○	
○			海外研修	バイオテクノロジーに関する国際的な視野と見聞を広める。 レポートと出席によって評価する。	2後	30	1		○			○		○	
○			就職講座Ⅰ	就職活動に向けて、国語・数学などの基礎学力向上を目指す。 試験によって評価する。	3後	60	4	○			○			○	○

○		業界研究 I	協力企業と連携し、将来像を描くために業界研究を行う。 レポートと出席によって評価する。	1 後	30	1		○	○	○	○	○	○	○	○
○		業界研究 II	協力企業と連携し、将来像を具体化するための業界研究を行う。 レポートと出席によって評価する。	2 後	30	1		○		○		○	○		
○		英語 I	一般英語の基礎を固め、社会人として必要な英語の力と興味を養う。 試験によって評価する。	2 後	30	2		○		○				○	
○		英語 II	一般英語の応用力を身に付け、国際人としての素養を養う。 試験によって評価する。	3 前	30	2		○		○				○	
○		化学 I	化学の基本的概念(エネルギー、粒子)及び基礎的事項を理解し化学的に考察する能力を育てる。 試験によって評価する。	1 前	30	2		○		○				○	
○		化学 II	化学の基本的概念(物質の構成や変化)を理解し化学的に考察する能力を育てる。試験によって評価する。	1 後	30	2		○		○				○	
○		統計処理法	実験データの処理に関する統計的な方法を身につける。 試験によって評価する。	3 後	30	2		○		○				○	
○		生物学 I	生物や生物現象について、興味や関心を高める。 試験によって評価する。	1 前	30	2		○		○				○	
○		生物学 II	生命現象の基礎を学び、生命の仕組みを理解する。 試験によって評価する。	1 後	30	2		○		○				○	
○		環境概論	環境問題について幅広い知識を身につけるとともに、環境と社会の関わりについて理解する。試験によって評価する。	1 前	30	2		○		○				○	
○		生化学 I	生態を構成する物質の基本を学習する。 試験によって評価する。	1 後	30	2		○		○				○	
○		生化学 II	物質代謝の基本的骨組みを学習する。 試験によって評価する。	2 前	30	2		○		○				○	
○		有機化学	有機化学の基本を身につける。 試験によって評価する。	1 後	30	2		○		○				○	
○		分析化学 I	反応や化合物あるいは分析の基本となる原理について理解する。 試験によって評価する。	1 前	30	2		○		○				○	

○		分析化学Ⅱ	定量分析及び機器分析の基本について理解する。 試験によって評価する。	1 後	30	2	○			○		○	
○		分子生物学Ⅰ	原核生物と真核生物それぞれから見た遺伝子発現について学ぶ。 試験によって評価する。	1 前	30	2	○			○		○	
○		分子生物学Ⅱ	原核生物及び真核生物のタンパク質合成について学ぶ。 試験によって評価する。	1 後	30	2	○			○		○	
○		微生物学Ⅰ	微生物の分類、生態について学ぶ。 試験によって評価する。	1 前	30	2	○			○		○	
○		微生物学Ⅱ	微生物の応用について学ぶ。 試験によって評価する。	1 後	30	2	○			○		○	
○		遺伝子工学	遺伝子工学に頻繁に用いられる材料とその原理について理解する。 試験によって評価する。	2 前	30	2	○			○		○	
○		基礎実習Ⅰ	実験の化学的概念を学ぶ。 レポートと出席によって評価する。	1 前	90	2			○	○		○	○
○		基礎実習Ⅱ	実験を通して生命の仕組みを学ぶ。	1 後	45	1			○	○		○	○
○		環境概論	環境問題について幅広い知識を身につけるとともに、環境と社会の関わりについて理解する。試験によって評価する。	1 前	30	2	○			○		○	
○		公害基礎Ⅰ	公害防止管理者試験に合格する為の幅広い知識を身につける。 レポートによって評価する。	1 前	30	2	○			○		○	
○		生命倫理	安全性の問題を中心に今日のガイドラインの成立について学ぶ。 試験によって評価する。	2 前	30	2	○			○		○	○
○		生命化学Ⅰ	生命化学のトピックスを中心に学ぶ。 試験によって評価する。	2 前	30	2	○			○		○	○
○		生命化学Ⅱ	生命化学のトピックスを中心に学ぶ。 試験によって評価する。	2 後	60	4	○			○		○	○
○		環境分類学	生物の採集、同定、標本作成方法など生物分類技能検定試験合格のための知識を学ぶ。試験によって評価する。	1 前	15	1	○			○		○	

○		危険物化学	危険物取扱者試験合格のために、様々な化学物質の取扱法や法規を学習する。試験によって評価する。	1 後	30	2	○			○	○	○	
○		毒劇化学	毒劇物に関する基礎的な知識に必要な化学の力をつける。試験によって評価する。	2 前	60	4	○			○	○	○	
○		生命工学特論	ヒトのがん遺伝子、免疫関連遺伝子、遺伝病、遺伝子診断などについて解説する。試験によって評価する。	4 前	45	3	○			○	○		
○		遺伝子実習Ⅰ	遺伝子組換えの基礎的実験を行う。レポート、出席、試験によって評価する。	3 前	90	2				○	○	○	
○		遺伝子実習Ⅱ	遺伝子組換えの応用実験を行う。レポート、出席、試験によって評価する。	4 前	45	1				○	○	○	
○		応用実習Ⅰ	化学・遺伝子工学などに関する実験技術と論理的思考方法を習得する。レポートと出席によって評価する。	1 後	90	2				○	○	○	
○		応用実習Ⅱ	化学・遺伝子工学などに関する実験技術と論理的思考方法を習得する。レポートと出席によって評価する。	2 前	135	3				○	○	○	
○		遺伝生化学	遺伝に関わる生体物質の化学的構造や遺伝現象の生化学的側面を学習する。試験によって評価する。	3 前	30	2	○			○	○		
○		薬理学	医薬品の作用やそのメカニズムを学ぶ。試験によって評価する。	2 前	30	2	○			○		○	
○		バイオテクノロジー特論Ⅰ	核酸や安全管理、動物、植物、微生物のバイオテクノロジーに関する高度な知識を学ぶ。試験によって評価する。	3 後	45	3	○			○	○		
○		解剖生理学	生物の体の成り立ちや器官の位置・名称・機能などについて学ぶ。試験によって評価する。	2 後	30	2	○			○		○	
○		基礎動物学Ⅰ	実験動物技術者試験対策として、実験動物の飼育・飼料・栄養・衛生・施設と管理法などを学ぶ。試験によって評価する。	2 後	45	3	○			○		○	
○		基礎動物学Ⅱ	実験動物技術者試験対策として、実験動物の遺伝・育種・繁殖・動物実験の基礎などを学ぶ。試験によって評価する。	3 前	45	3	○			○		○	
○		病原微生物学	実験動物技術者試験対策として、異常を示した実験動物への初期対応法や感染症などについて学ぶ。試験によって評価する。	4 前	30	2	○			○		○	

○		応用動物学	実験動物技術者試験対策として、マウス・ラットの特徴や飼育・繁殖峰などについて学ぶ。試験によって評価する。	3前	45	3	○			○								
○		動物細胞培養実習Ⅰ	動物細胞培養法の基礎を学ぶ。レポートと出席によって評価する。	2前	45	1			○	○			○					
○		動物細胞培養実習Ⅱ	細胞培養を利用した実験技術を学ぶ。レポートと出席によって評価する。	2後	45	1			○	○			○					
○		免疫化学演習	タンパク質などの生体構成成分を利用した化学実験法を学ぶ。レポート、出席、試験によって評価する。	3前	60	2			○	○			○					
○		基礎動物学実習Ⅰ	実験動物技術者試験対策として、実験動物の取扱法(給餌・飼育・消毒など)を学ぶ。レポート、出席、試験によって評価する。	2後	45	1			○	○			○				○	○
○		基礎動物学実習Ⅱ	実験動物技術者試験対策として、基本的な動物実験の手技(採血、麻酔、安楽死など)を学ぶ。レポート、出席、試験によって評価する。	3前	90	2			○	○			○				○	○
○		応用動物学実習Ⅰ	実験動物技術者試験対策として、血液検査や糞便検査など各種検査法を学ぶ。レポート、出席、試験によって評価する。	3後	45	1			○	○			○				○	○
○		応用動物学実習Ⅱ	実験動物技術者試験対策として、生殖工学に関する技術を学ぶ。レポート、出席、試験によって評価する。	3後	90	2			○	○			○				○	○
○		卒業実習Ⅰ	卒業研究のテーマに従って実験を行う。中間審査によって評価する。	3後	90	2			○	○			○					
○	*1	講読演習Ⅳ	学生から社会人への気持ちの切り替えや、社会人としての振る舞いを身につける。レポートと出席によって評価する。	4通	60	2			○	○			○					
○	*1	バイオテクノロジー演習	学生から社会人への気持ちの切り替えや、社会人としての振る舞いを身につける。レポートと出席によって評価する。	4通	60	2			○				○				○	○
○	*2	就職講座Ⅱ	社会人として必要なビジネスマナーを身につける。試験によって評価する。	4前	60	4	○			○			○					
○	*2	バイオテクノロジー特論Ⅲ	社会人として必要なビジネスマナーを身につける。試験によって評価する。	4前	60	4	○						○				○	○
○	*3	特許法	特許法の概要を習得し、研究開発や企業活動において活用できる素地を培う。試験によって評価する。	4前	30	2	○						○				○	○

○ *3	バイオテクノロジー特論Ⅲ	社会人として必要とされる知的財産等に関する知識を学ぶ。 レポートと出席によって評価する。	4 前	30	2	○			○		○	
○ *4	卒業実習Ⅱ	卒業研究として実験を行い、その結果についてプレゼンテーションを行う。 審査によって評価する。	4 前	270	6				○	○		○
○ *5	卒業実習Ⅲ	卒業研究として実験を行い、その結果についてプレゼンテーションを行う。 審査によって評価する。	4 前	90	2				○	○		○
○ *6	卒業実習Ⅳ	卒業研究のまとめを行う。卒業論文審査によって審査する。	4 後	270	6				○	○		○
○ *7	卒業実習Ⅴ	卒業研究のまとめを行う。卒業論文審査によって審査する。	4 後	90	2				○	○		○
○ *4	インターンシップⅠ	自己の職業適性を把握した後、希望分野の企業において職業研修を行う。 レポートと出席によって評価する。	4 前	270	6				○		○	○
○ *5	インターンシップⅡ	自己の職業適性を把握した後、希望分野の企業において職業研修を行う。 レポートと出席によって評価する。	4 前	90	2				○		○	○
○ *6	インターンシップⅢ	実務実習のまとめを企業において研修する。 レポートと出席によって評価する。	4 後	270	6				○		○	○
○ *7	インターンシップⅣ	実務実習のまとめを企業において研修する。 レポートと出席によって評価する。	4 後	90	2				○		○	○
	○	公害基礎Ⅱ	公害防止管理者試験に合格する為の知識を身につける。レポートによって評価する。	1 前	30	2	○			○		○
	○	放射線概論	放射線取り扱いの基礎を放射線の物理学、化学、生物学を学ぶ。試験によって評価する。	1 後	30	2	○			○		○
	○	放射線概論	放射線取り扱いの基礎と放射線の物理学、化学、生物学を学ぶ。試験によって評価する。	1 後	30	2	○			○		○
	○	生命工学特論	ヒトのがん遺伝子、免疫関連遺伝子遺伝病、遺伝子診断などについて解説する。試験によって評価する。	2 前	45	3	○			○		○
合計			80科目	2685単位時間(112 単位)					

*1~7の科目は、どれか1科目を選択

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
<p>卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試験（追試験・再試験含む）による単位を修得した者を対象として、学校長、教務及び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。</p> <p>卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。</p> <p>卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。留年及び卒業の延期者については、その後の取得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。</p>	1学期の授業期間	26週